

サーキット・ライダー 2005年12月号

信仰は科学では解明できない

天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼ひ葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」

ルカ 2：10－11.

今年の10月中旬の話ですが、ノーベル平和賞を受賞した十四世ダライ・ラマがニューヨーク、ニュージャージーを訪れ、ラトガーズ大学やユニオン神学校で講演をしました。ユニオンの後、リバーサイド教会でエキュメニカル合同宗教礼拝があり、私もユニオン神学校の友人に誘われ出たかったのですが授業があり、残念ながら出られませんでした。ダライ・ラマはチベットの密教の総本山の指導者の総称ですが、1959年に中国にチベットが占領されて以来、インドに亡命し、宗教の違いを超えて他宗教とも協力し世界平和の為に教えてきました。その功績が認められ1989年に上述のノーベル賞を受賞しました。現在も世界中を精力的に回り講演をしています。

さてそのような素晴らしい人物であっても、時に「宗教者」ということで受け入れられないこともあります。10月19日付けのニューヨーク・タイムズ紙に今回のアメリカ訪問で一部の科学者達が、「ダライ・ラマを呼んでスピリチュアルな話を聞くのは講演会とは言え、科学の信憑性に欠けるから、呼ぶことには反対する。」と声明を出したそうです。この記事を読んだ時に私は「なんと愚かな科学者たち！」と思ったと同時に、科学者達（一部のですが）の驕りを感じました。ダライ・ラマは決して科学を否定している訳でもなんでもなく、ただ心の平安、瞑想、世界平和等を訴えているだけなのですが、ただ科学で証明できない霊的な世界の話をするというだけで、否定するのは、無知としか表現できません。

一体どこからこのような驕り高ぶりは来ているのでしょうか？思うに科学文明、技術が発達し、色々な謎が解明されてきたことによる、それを推進しているのが科学者だという自負心、私から見れば傲慢にあるのだと思います。太古から今日まで歴史を紐解けば分かることですが、科学者たちは何一つとして無から新しい物を創造していません。なるほど科学者達は新しい発見、発明を次々にしています。しかしそれは、これまで技術が発達しておらず、科学、文化、知識が発達の途上にあつた故、見つけることができなかっただけで、既にこの世界には存在していました。中性子にしても超微粒子にしても、宇宙、世界には存在していた。ただ人間が知らなかっただけだったのです。また電子工学も元々物質の中にあつた性質を解明して、それを利用している、言わばリサイクルです。遺伝子ももともと我々の体の中にあつた。それを利用してクローン技術が発達した。私は美術を学ぶ前は科学大好き少年だったので、科学を否定する積りは毛頭ありません。どんどんこれまで解らなかつたことを解明し、医学や社会に役立ててもらいたいと思っています。しかし、霊的な世界など分からないからと言って、否定したりするのは科学者のすることではないと思います。寧ろ、解らないこと、未知の分野を解明するのが科学者の仕事ではないでしょうか。

今年もクリスマス待ち望む季節になりました。「処女降誕や復活が解らない」という人が、無神論者の中だけでなくキリスト教徒の中にもいます。それは上述のようにあまりにも科学ばかりが真実であるかのように、また文明の発達した現代を過信しているからではないでしょうか。アメリカでも未だに進化論と創造論を科学として比較し、どちらが正しいと議論して、教科書に進化論を載せるか、創造論を載せるかで物議をかもし出している州があります。愚かな話です。神の創造は信仰の話であり、さまざまな真実が喩で書かれています。聖書は信仰の書であり、本来は科学と何ら相反することはないのです。信仰と科学を比べる必要はさらさらありません。大事なことは信じること。それだけです。

2000年ちょっと前、後に世界の救世主として仰がれるイエス・キリストがお生まれになった。それは揺るぎがたい事実です。そのお方は贅沢をして貧しい人々を苦しめていた王侯貴族の家にお生まれになったのではない。貧しい者の家に、しかも馬小屋でお生まれになった。だからこそ、彼は私たちの痛み苦しみが分かるお方として成長され、素晴らしい教え、救いを説かれた。だからこそ信ずる私たちは、誕生日をお祝いするのです。大好きな人（お方）の誕生日を祝いたいという気持ちそれが大切です。今年も心からこの聖日をお祝いしたいものです。良いクリスマスをお迎えください。 吉松 純

***Jr.教会（教会学校）は午後3時からです。**

***祈りたい方の為に礼拝堂を午後2時30分より開放しています。どうぞご利用ください。**

***聖日予定：礼拝時間は午後3時です。**

12月 4日：自由祈祷会、聖餐式礼拝。アドベント第二礼拝、聖餐式、Jr.教会：いろはカルタ、歌。礼拝後、グリーンング（礼拝堂の飾りつけ）と夕食会。

11日：自由祈祷会、アドベント第三礼拝、Jr.教会：スリーフォールド・シュタイナー・コミュニティーのクリスマス・フェスティバル見学。

18日：自由祈祷会、アドベント第四礼拝、Jr.教会：いろはカルタ、歌、ユーリズム。

24日：クリスマス・イブ・キャンドル・サービス、日本語午後7時。英語午後9時。

25日：自由祈祷会、クリスマス礼拝、Jr.教会：いろはカルタ、歌、ユーリズム。礼拝後、祝会。

2006年

1月 1日：自由祈祷会、新年礼拝、Jr.教会：餅つきのお手伝い。礼拝後、餅つき祝会。

***行事予定と報告**

* 6日（火）午後2時30分より、フォートリーBethany United Methodist Church（Main St パリジエンヌから西に2ブロック）で親子の会をします。今月も松尾タカエ姉の指導で母と子のユーリズムを学びます。皆さん、お誘い併せの上お出で下さい。

* 16日（金）午前10時30分より、牧師館にて聖書の学びがあります。どうぞご参加下さい。

* 17日（土）午後3時よりクリスマス・キャロリング。Plaza 老人ホームに集合し、そこを皮切りにアメリカ人の教会員のお宅を讚美して回ります。キャロリングの後、教会に戻り、スープの夕食をいただきます。どうぞご参加下さい。

* 24日（土）クリスマス・イブ・キャンドル・サービス。日本語午後7時、英語午後9時。

* 25日（日）クリスマス礼拝と祝会。今回は教会で簡単なサンドイッチを用意します。皆さんはデザートやスナック、飲み物など簡単なものをお持ち下さい。またプレゼント交換をしますので3ドル以内のプレゼントをご用意下さい。一人一つでお願いします。

*元旦（日）礼拝後、恒例の餅つき大会です。教会で餅と、年越したソバを用意します。皆さんは餅と併せて食べる物、例えば黄な粉、あんこ、納豆などをお持ち下さい。

***御協力お願い致します。献金のあて先はUMC-JAとし、寄付のあて先をNoteに記してください。**

*ハリケーン・カテリナとリタの被災者救済献金を受け付けています。献金は合同メソジスト教団を通して、被災地に送られます。ご協力下さい。

*引き続きインドネシア沖地震と津波の被害国への救援献金をしています。ご協力お願いします。

*ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。

*使用済み切手を集めています。ご協力下さい。消印のついた切手の周り1センチくらいの余白を残して切とって下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会（JOCs）に送ります。JOCsは切手を換金し得られた収益金で海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。

*心臓病を患う子供の救援団体HOPE（The Heart of Pediatric Electrophysiology）にもご協力下さい。

*ケニアの恵まれない子供達やエイズの患者さん為に特別献金をしています。ご協力下さい。

*パターソンのSt. Philip伝道と社会福祉団体CUMAC/ECHOの為に。どちらもメソジスト教団に属し、貧しい人達の為の炊き出しと路傍伝道をしています。

連絡先：英語オフィス（201）391-5499 日本語及びファックス（201）505-0347

ホームページ：<http://umc-japan.org> 吉松牧師宅（201）391-2208 pastor@umc-japan.org

教会学校担当：松尾タカエ姉（201）802-1769 takae17A@AOL.com

Merry Christmas and Happy New Year!